

大震災から千日が過ぎました。福島県双葉郡富岡町は、津波被害と原子力発電所事故の影響で、今年四月まで全域が立ち入り制限下にありまして、現在も昼夜通じての居住は許されていません。町の中心部であつても、まだ時が止まったような状態にあります。

もちろん、農業は事実上不可能な状態で、米どころとして知られた富岡町の豊かな田畑は、除草剤も大幅に遅れている結果、一面の雑草に覆われてしまいました。イノシシ等の被害も極めて大きいのが実情です。それでも豊かであった農地を

富岡町アグリ環境  
協議会会長  
岡田久典さん



## 東北復興日記

69



# 震災後初 水稲が実った

使い続けたいという農民。津波の影響で農機の皆さんの熱意と「キリ 具などがすべて流されてしまったため再整備を行なうことにしました。震災後二年

中心となったのは、渡辺康男組合長を中心とする生産組合員の仲間たち

1の活用を目指しています。浜通りでは南相馬などでも同様の取り組みが始まっています。

「写真。今までは食糧生産のエキスパートでしたが、水稲やコーリヤンを栽培し、植物由来燃料にしていることにチャレンジしています。避難先は散らばっていますが、心を一つにして研さんに励んでいるところです。各種専門家の支援ネットワークも、富岡町アグリ環境協議会を中心に組織されており、単なる実験や実証、PRにとどまらない再生可能エネルギー

また東京では、「東北の復興なくして東京オリピックの真の成功なし」を合言葉にしたさまざまな支援活動が、仙台市では女性を中心とした新たな東北復興ビジネスの息吹も生まれつつあります。連携して仲間を大きく増やしていきたいと考えています。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。